

第5回大台町立小学校のあり方検討委員会 報告書 【保育園代表及び小学校 PTAとの懇談】 (川添小学校区)

アンケート結果では、保護者・一般ともに「基礎的学力の向上」と「安心して学べる学校づくり」を重視。教育環境では「安心して学校生活を送れる環境」「安全な通学」「教員の指導体制の充実」が上位で、「多くの仲間と切磋琢磨できる環境」や、一般層では「地域の人とのつながり」も重視された。

(意見)

- 新しい校舎を求めるより、まず安全性の確保が重要だと思います。設備や維持管理の状況について、現場の感覚としてどうでしょうか。耐震さえしっかりしていればよいのか、老朽箇所の対応状況も知りたいです。
- 近年の暑さ対策について、体育館への空調設置、プールへの日除けの設置をし、子どもたちが安心して学校生活を送れるようにしてほしい。

児童数減少への対応（資料4～6）では、統合に前向きが多数。統合時は「通学手段」「通学路の安全」「距離・時間」を重視、現状維持の場合は「少人数教育の充実」「安心・安全な学習環境」「交流学習の拡充」、一般では「複式学級に対応できる教員研修」も挙がった。

(意見)

- 自分の時代は1学級30～40人でした。今の少人数・複式の良さや課題が分かりにくい面があります。実際の学びの様子を教えてほしいです。
- 体育などの集団種目は人数不足で制約が出やすい。学年横断や学校間交流で補える機会が増えるとよいと思います。
- 複式学級から人数の多い学校に行くことになると、なじめるのか不安に感じるところがある。
- 私の子どもは、2人の学級でしたが、中学校に行って、すぐに溶け込むことができました。心配しているのは親だけで、子どもたちは普通に溶け込んでいくのだと思います。
- スクールバスの事故があったと思います。わが子がそこに乗っていたと思うと不安しかありません。スクールバスで通わせることは不安です。だから、統合には反対しています。
- 地区によって受け止めが異なると思います。特に奥地の地域は通学負担が大きくなりがちです。地域別の傾向が分かるような分析があると議論しやすいです。

再編規模（資料7）では「4校を2校に」が最多。地理・交通実態や将来児童数を踏まえた配置が必要

（意見）

- 1学級が33～40人規模だと、教員の目が届きにくい面がありました。20～30人程度の学級規模が望ましいと感じます。
- 人口減少が続くなら、段階的統合を重ねるより、将来像を見据えて「1校に」した方が再編を繰り返さずに済むのでは。跡地活用、維持管理コスト、エネルギー効率なども併せて議論が必要です。
- 「2校に」が多いのは、地理的条件（例：流域ごと・中心部と西側）を踏まえた現実的イメージがあるからでは。通学距離や路線、冬場の道路状況などを考慮して配置を慎重に検討すべきです。
- 「今の小学校がいい」という愛着が強い一方で、「他地域の学校ともっと交流したい」という希望も多い。現状への愛着と、多様な関わりへの期待が同居していると感じます。再編の検討に際しては、子どもへの説明や心理的ケア、交流の段階的な設計が必要ではないでしょうか。
- プールに遮熱対策、体育館にエアコンなど、子どもたちが学ぶ環境がよくなるのであれば、統合に反対しません。